

☆沖縄はいま！

——名護市長選を振り返って——

後を絶たぬ米軍による事件・事故

◆沖縄県における凶悪犯罪は、1972年（S47）の本土復帰から43年間で574件も発生しています。強盗が394件、強姦が129件、殺人・26件放火・25件（県警の犯罪統計から）。また沖縄県内で発生した米軍機の事故は709件で、墜落事故は74件にも及んでいます。直近では、一昨年12月にオスプレイが名護市の海岸に墜落して大破、米兵2名が負傷しています。

◆こうした事件・事故が他の基地に比べて突出しているのは、日本の米軍基地の74%が沖縄に集中しているからです。これ以上の基地負担は絶対に認められないと、沖縄のみなさんはたたかいを続けています。

市長選・徹底した争点隠しと政府の異常な関与

◆2月4日、名護市長選があり、現市長が新人候補にやぶれてしまいました。この選挙は誰もが認める「新基地を作るか否か」が争点でした。しかし、新人候補は徹底して争点を隠し、地域産業の振興を前面に、学校給食や医療費の無償化など甘い言葉で有権者の目を欺き、また民主主義の基本である公開討論会をボイコットしました。

◆安倍政権は、人口僅か63000人の名護市に、告示前から閣僚や国会議員を大動員して業界団体に圧力をかけました。また、住民一人ひとりの意思で市の将来のあり方を問う大切な市長選挙に、政府与党幹部の異常な関与によって地方自治が歪められたと思います。

◆市長選の告示直後に実施された新聞社の世論調査によれば、新基地建設に反対は63%で、賛成の20%を大きく上回りました。しかし「国とけんかばかりしている現市長では国から財源をとれない」と、全力で現市長つぶしにかかったといわれています。

辺野古新基地の問題をいっしょに考えよう

◆「基地を持つ国は基地で亡び、核を持つ国は核で亡ぶ」「平和の最大の敵は無関心である」（沖縄・阿波根昌鴻氏の言葉）。いま名護市辺野古では、新基地の埋め立て工事が進められています。ところが、この基地建設には、深刻な土木技術上の問題があり、将来、非常に大きな危険をはらんでいます。それは活断層が走っている可能性や地盤が軟弱であることなどです。

◆そこで憲法を守る会は、裏面のような講演会を企画しました（裏面参照）。是非、ご出席下さい。そして辺野古新基地の問題をいっしょに考えましょう。

二〇一八年三月一日(日) 護憲平和行進(通算613回目)

浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一一一五

★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合